

国際機関インターンシップ・プログラム

1 概要

国際移住機関(IOM)および経済協力開発機構(OECD)で行われる国際機関インターンシップ・プログラムは東京外国語大学と両機関との間の協定に基づいて、本学が募集、選抜、推薦するものです。

本学における選考過程を経て推薦を受けた学生は、IOMまたはOECDのインターンシップ空席公募に直接応募し、インタビュー等の選考過程を経て、インターンとして受け入れられるか否かは最終的にはそれぞれの国際機関により決定されます。
受け入れが決定した学生には、本学国際教育支援基金より、支援金が支給されます。

2 インターンシップ期間

IOM: 2カ月から9カ月間、OECD: 1カ月から12カ月間(一般的には4カ月から6カ月間。)

3 応募要件

- ・大学院生の場合は、本学大学院にてインターンを希望する部門に関連した分野の博士前期/後期課程の正規学生としてフルタイムで在学していること。
- ・学部生の場合、高度な語学運用能力、専門知識が求められるため、学部3年生以上の応募を推奨する。
- ・英語および派遣希望先の国で使われている国連公用語が堪能であること(英語力: TOEIC920/IELTS6.5/TOEFL iBT90、たとえばフランス語の場合はB2以上)
- ・GPAが2.8以上であること
- ・最低でも1カ月間、週40時間フルタイムで勤務できること
- ・2021年3月以降に卒業予定の方

4 連絡先

国際機関インターンシップ受付窓口: mailto:intl_internship@tufs.ac.jp

(国連職員として活躍中の卒業生・松本夏季さん)

国際機関でのインターンは実務経験として考慮されることが多いため、国際協力業界への就職を考えている方にはおすすめです。全世界から厳しい選考を勝ち抜いてきた他のインターンの中で、しっかりと仕事をこなし、正当な評価を受けることが次につながります。有意義な経験となることを願っています。



詳細は本学ホームページ
<http://wp.tufs.ac.jp/tufstoday/alumni/19102401/>

(国際協力機関職員として活躍中の卒業生・宍倉未記さん)

「国連でインターン」この響きからは何か華やかな姿を想像します。事実、就職活動でも面接官は興味津々でした。実際は多様な関係者との多様な英語コミュニケーションに悪戦苦闘し、専門性を極めた各職員の話を聞いて左顧右眄という有様だったのですが、国際協力の道を行く決心をさせてくれました。是非、現場で働く貴重な機会に触れ、漠然とした憧れをリアルな職業選択の一つにしてください。



詳細は本学ホームページ
<http://wp.tufs.ac.jp/tufstoday/alumni/19102401/>

東京外国語大学

外交官等国家・地方公務員プログラム

近年、本学においても、外務省専門職や国家公務員総合職、一般職、東京都庁等の地方公務員といった、公務員試験に合格する学生が増加しています。

ひとくちに公務員といっても、その業務内容は非常に多様であり、

しかもそれぞれの職務に応じた広い知識と高い理解力が求められています。

この度、本学のグローバル・キャリア・センターでは、皆さんの進路選択と受験準備を支援することを目的とした、

外交官等国家・地方公務員プログラムを整備しました。

公務員を進路の候補としている方は、ぜひこのプログラムを有効に活用してください。



外務省専門職員として活躍中の卒業生・満生紗希子さん
(外交官等国家・地方公務員プログラム参照)



外務省専門職員として活躍中の卒業生・殿村さおりさん
(外交官等国家・地方公務員プログラム参照)



東京外国語大学
TOKYO UNIVERSITY OF FOREIGN STUDIES

外交官等国家・地方公務員プログラム

1 概要

本プログラムは、外務省専門職員採用試験、国家公務員採用総合職試験、地方公務員採用試験を始めとした公務員試験を受験する本学学生(学部生および大学院生)のためのプログラムです。

具体的には、本学専任教員および非常勤講師による正課の授業、そして、正課外の補習プログラムの二つの柱によって構成されています。正課の授業のみ、あるいは補習プログラムのみを受講することも可能です。受講料等の負担はありません。

正課の授業には世界教養プログラムの教養科目等、学部1年次より受講が可能な授業もあります。公務員を進路の候補としている方は、ぜひ1年次からそれを見据えて授業を選択してください。

これに対して、正課外の補習プログラムについては、より実践的な内容を予定しているため、公務員試験の受験を予定している学部2年次以上の学生(大学院生を含む)を対象とします。演習ではアクティブ・ラーニングも取り入れる予定なので、公務員試験を受験する学生同士がつながる場にもなります。

外交官等国家・地方公務員の職種

■ 外務省専門職

外務省専門職員は、高い語学力を有し、関連する国・地域のスペシャリスト、あるいは条約、経済、経済協力、軍縮、広報文化などの専門分野のスペシャリストとして活躍することが期待されています。海外においては、日本の外交官として相手国政府との交渉や政治・経済その他の情報の収集・分析などに携わり、本省においては、その専門的知見を活かして外交政策の企画・立案に携わります。

多岐選択、筆記試験等から成る一次試験と外国語会話を含む面接等の二次試験に合格すれば、最終合格者として、翌年4月に外務省事務官として外務省に採用されます。

■ 国家公務員総合職

総合職職員は、「政策の企画及び立案又は調査及び研究に関する事務をその職務とする係員」とされています。実際に担当する業務や求められる人物像は、採用される官庁によって様々です。ただ、政策の中枢に深くかかわることになるので、広い視野と深い見識が求められることは言うまでもありません。

多岐選択の第一次試験と筆記試験と面接等から成る二次試験に合格すれば、官庁訪問を行うことが出来ます。官庁訪問では、志望する官庁に実際に訪問して、各官庁の担当者から面接を受けます。その面接で合格して初めて、その官庁で働くことが出来ます。

■ 国家公務員一般職

一般職職員は、「定型的な事務をその職務とする係員」とされています。採用後は、本府省や地方に所在する出先機関等に配属になります。本府省での採用も、地域の出先機関での採用もどちらもありますので、希望の勤務スタイルに合わせて受験を行うことが出来ます。

総合職試験と同様に、多岐選択の第一次試験と筆記試験と面接等から成る二次試験への合格に加えて、官庁訪問での面接を経て採用されます。ただし、総合職試験とは試験の時期が異なる関係で、官庁訪問の時期が試験と被ったり、また官庁訪問の予約を個別に採る必要があることもあります。

■ 地方公務員

地方公務員は、都道府県、あるいは市町村・東京特別区などの職員です。国家公務員とは異なり、地域の課題や住民に密着した業務が多いことが特徴になります。他方で、その地方公共団体の政策の企画や立案も担当することになりますので、幅広い業務に携わることが出来ます。

採用は個々の地方公共団体ごとに特色ある試験を行っています。自分が就職したい地方公共団体のホームページ等で、どのような試験が行われているか、どのような人材が求められているかをしっかりと把握して対策を行うことが重要です。

(外務省専門職員として活躍中の卒業生・満生紗希子さん)

外務省入省後、まずは1ヶ月くらい、自分の与えられた言語とODAや安全保障などのいろいろな分野を外務講義で学びます。5月くらいから本省勤務が始まり、私は開発協力企画室というところで、ODAに関して企画や立案をする仕事をしていました。その後、中東第1課でエジプトを担当していました。その後、また研修があり語学をみっちりやり、また外務講義でさまざまな分野を学びます。中間期にも、毎週2回、午前中に語学の勉強をする時間があります。

詳細は本学ホームページ

<http://wp.tufs.ac.jp/tufstoday/alumni/19082701/>

(外務省専門職員として活躍中の卒業生・殿村さおりさん)

1年間の気候変動課での勤務と2年間のベルリン自由大学での在外研修を経て、現在は在ミュンヘン日本総領事館で、主に広報と文化交流事業を担当しています。SNSや各種イベントで日本の魅力を発信したり、担当地域の州政府関係者や有識者から情報収集を行ったりと、当然ながら外大で学んだドイツ語を毎日使い、時には通訳をすることもあります。2021年には修好160周年を迎える日独関係を次の世代に引き渡していく今の仕事は、国際法ゼミや模擬国連サークルなどでの学びが役立つことも多く、楽しく充実した日々を過ごしています。

(外交官等国家・地方公務員プログラム・コーディネーター小川亮先生からのメッセージ)

皆さんこんにちは。東京外国語大学で憲法1・憲法2を担当している小川亮です。

私は国家公務員総合職試験(法律)に合格後、官庁訪問を経て総務省や内閣官房で3年間勤務していました。補習プログラムでの概要は次頁に記載してある通りですが、皆さんの御要望も踏まえて柔軟に、皆さんの進路選択や受験をサポートしていきます。特に、皆さんが自分の力で受験の準備をできるように成長する手助けをできればと思っています。試験は運試しの面もありますが、きちんと準備しておくことによって悪運を乗り越えられるようにしておくことが大切です。一緒に頑張っていきましょう。



2 プログラムの内容

(1) 正課の対応科目

本学が開講している以下の授業で、公務員試験の受験に必要な知識を学ぶことができます。もちろん事前・事後の十分な学習が必要となることは言うまでもありません。

受験科目	授 業 名
憲 法	※憲法1、※憲法2
国 際 法	※国際社会と地域2(教養としての国際法) 国際法概論1、国際法概論2、国際法1、国際法2
経 済 学	経済学入門1、経済学入門2、経済学1、経済学2
民 法	法学入門2(民法総論)、私法1(物件法A)、私法2(物件法B)、私法1(債権法A)、私法2(債権法B)
行 政 法	公法(行政法1)、公法(行政法2)
政 治 学	政治学入門1、政治学1
国際関係	国際政治概論1、国際政治論1、国際機構論
行 政 学	政治学2(行政学)
財 政 学	経済学2(財政学)
公共政策	経済学1(公共政策)
商 法	私法1(会社法)、私法2(会社法・商法)
刑 法	公法(刑法)
労 働 法	私法2(労働法)

*上記の授業は、世界教養プログラムの教養科目(※)の他、言語文化学部・国際日本学部は関連科目として、国際社会学部は専修プログラムとして履修できます。

(参考)公務員試験科目

職 種		必 須 科 目	選 択 科 目
外務省専門職		国際法	憲法 経済学
国家公務員 総合職	政治・国際	政治学 国際関係 憲法	行政学 国際法 行政法 民法 経済学 財政学 公共政策 等
	法 律	憲法 行政法 民法	国際法 商法 刑法 労働法 経済学・財政学 公共政策
	経 済	経済理論 経済事情 財政学・経済政策 統計学・計量経済学	経済史・経済事情 国際経済学 経営学 憲法 民法 公共政策
地方公務員		憲法 経済学 民法 行政法 政治学 行政学 財政学 等	

(2) 正課外の補習プログラム

春学期および秋学期の毎週水曜日に「外交官等国家・地方公務員プログラム・コーディネーター」の小川亮先生による公務員試験対策のための補習プログラムを実施します。

- ① 毎週水曜日11時から12時30分は、研究講義棟5階の550研究室において、進路に関する情報提供、面接を含めた受験準備の仕方、勉強の方法等について、学生が小川先生から指導やアドバイスを受けるための個別相談の時間を設定します。
- ② 毎週水曜日14時20分から15時50分は、410教室にて、小川先生による筆記試験対策のための答案練習・添削等を中心とした正課外の演習を開講します。法学の試験問題の分析や答案の書き方の方法を学ぶことができます。
- ③ さらに、不定期で、時事論文・政策論文の練習会(添削を含む)、集団討論・面接の練習会を行います。複数の官公庁勤務経験者等に担当を依頼する予定です。

東京外国語大学 グローバル・キャリア・センター (研究講義棟2階)

■ 電話:042-330-5832 ■ FAX:042-330-5835 ■ メール:cs@tufs.ac.jp